# 政府に熱意見られず

## 北炭再建、会社は必要資金調達へ

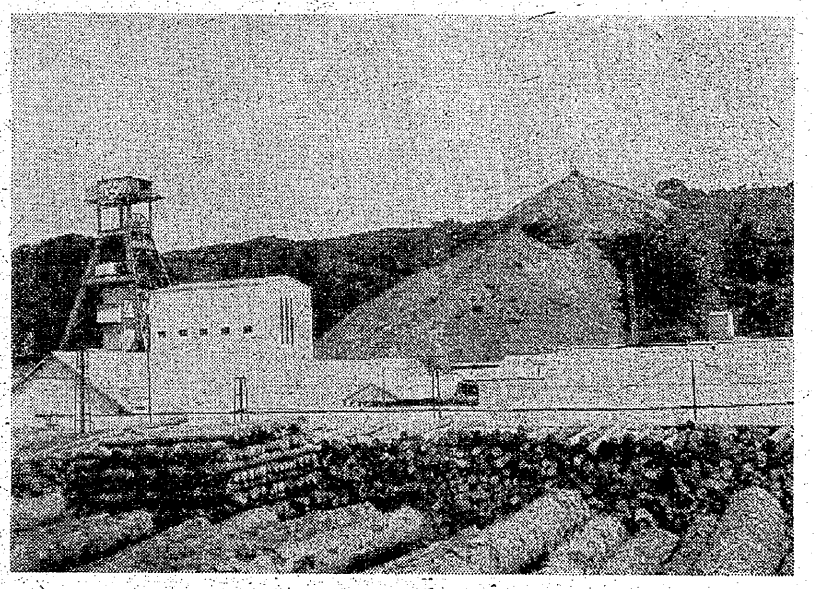
幌内炭鉱の災害復旧を中心とする北海道炭鉱の再建は、わが国のエネルギー・石炭政策の今後の方向とからむところからとくにその動向が注目されている。ところが炭労の努力にもかかわらず、当の政府に熱意が見られず、重大な局面にぶつかっている。

### その後の経過

北炭再建に関する炭労の努力はつづいている。

それに動かされ、北炭の会社側も自己資金の調達に心くだき、一定の歩みを示している。

十一月二十四日会社は改めて炭労（里谷委員長ら四人）に対し、次のようなことを明らかにした。



再建ができるかどうか、幌内炭鉱。

(1)十一月末までには、会社の再検討案を政府に提出したい。政府に受理されるものと判断する。

(2)必要資金の百三十億円の見通しはつき、自己資金で遂行する態度を決定した。

(3)労資で合意している協定を変える意志はない。

(4)会社幹部も直接陣頭指揮に当たるので、組合も協力してほしい。

この足で炭労は同日、通産省エネルギー島田石炭部長と会い「政府は、関係者に再建計画案を提出してもらうことを前提に、それにもとずいて最大限の協力をする、現行法を改正して特別措置を講ずる、とまで約束しておきながら、今にいたっても政府決定がないのはどういうことか」、と強く抗議した。そして「すみやかに検討し業務を推進してもらいたい」、旨を要求したが、政府の姿勢はずるずるとその業務をひきのばし、少しでも援助額を減らそうとしていることが歴然としているという。

炭労幌内復旧再建対策委員会は「北炭再建の問題は完全に政治問題であり、文字通り石炭政策そのものに関する問題である。今、重大災害一周忌を迎えた幌内炭鉱の二十四人の仲間の霊に誓って、再建しなければならない」、と訴えているが、北炭再建をめぐる政府の責任回避の態度は許されることではない。

### 期手闘争状況

期末手当闘争は、一部に昨年の実績を上まわる成果をあげたものの、中小零細企業の組合はきわめて低額回答がうちつづいている。

高額妥結で目をひくのは、三洋電機の八十二万六千七百六十六円に、放送関係が八十五万二百八十円（関西）～七十六万千円（NET）。出版関係は百九万五千百五十六円（小学館）～八十七万四百七十円（旺文社）。新聞は六十八万千百五十三円（朝日）～六十三万九千六百三十八円（日経）など。

# 会社のごう慢許さぬ

## 攻撃はどしどし摘発したたかおう

港務所指導部　平川道治

一一・九を前にした十一月八日午後二時三十分ごろ、私の職場（三池港駅係）に人事課より一本の電話がありました。

内容は、私の家（社宅の玄関わき）に貼ってある「三池大災害十三周年抗議集会」のポスターをはがしてくれ、ということでした。

この攻撃は、会社の一一・九に対する態度を暴露しています。また、憲法に保障された表現の自由への侵害であり、労使間の慣行をも無視しています。さらに、会社施設の管理権限の範囲をこえている上に、組合活動に制限をくわえようとするものであります。

まさに、不当労働行為そのもので許されるべきものではありません。

港務所では月給制の強行にともなって、賃金を本人におくれて知らせる基準法違反や、荷役課の婦人労働者にかけられている職制の威圧の中での労働強化など、労働者をバカにした、会社のごう慢な姿勢が目立ちます。

こうした攻撃には断固反撃し、どしどし摘発して行こうではありませんか。

# 主張

## 総選挙闘争総括と今後の労働運動

去る十一月五日実施された総選挙の結果は、ながい間腐敗しきった自民党政府に対する国民の怒りが得票によって証明された。

総選挙以前においてマスコミは、前哨戦とも言うべき県知事選や参議院補欠選挙における結果からして、ロッキード事件と選挙とは直接かかわりあいがないかのように論評していたが、田中角栄、橋本登美三郎、二階堂進、加藤六月など灰色高官がトップで当選するということになったものの、自民党は全国各地において、政治の責任を追及され、ようやく、自民党がブルジョアジーの代表として国家権力を欲しいままにしてきたことが暴露され、当選議席数ならびに得票率の減少ということになったことである。

それに比べて、公明党、民社、新自クラブの進出である。それが同時に今回の大きな特徴であったといえる。

とくに注目すべきことは、新自クラブと民社の進出について、われわれに多くの反省をする問題が残されたと言うことである。

新自クラブの結党の推移からみれば、自民党政府の危機的な条件が譲成されるなかで、独占資本はどうしても、資本主義体制を守ることがせまられてきたことである。そのためには、国民の反発、不満が労働者階級の運動と連帯しながら発展することを恐れたため、反自民的な装いをもちながら、組織化する必要があった。

このことは従来の石原慎太郎ら青嵐会の動きにみるような、右翼的な素質を前面に出すことなく、「自由社会を守る」「開かれた討議による国会運営を」「希望と躍進の党」など、耳ざわりの良いスローガンを掲げているものの、ファッショ的な性格に変りはないということである。

何故ならわれわれは、第二次世界戦争の引き金となったドイツのヒットラーにひきいられたファッショの誕生を忘れることができないからである。

ドイツは、一九一七年から二十年にかけ第一次世界戦争の敗北によって、資本主義の危機に見舞われた。革命の条件が成熟していた。そのとき独占は、生産性向上運動（合理化運動のはじまり）、技術革新によって、合理化を促進するかたわら、労働組合に対しては、成果配分や、ストライキ権を賦与しながら、あたかも社会主義的な政策を遂行するかのような幻想を労働者たちに与えながら、ファッショ権力を打ちたてていったことである。

さらに民社党の前進は中道政治への警鐘ということがいわれているが、そんなものではない。選挙の経過が示すように、労資協調＝企業選挙であったことであり、独占擁護の立場にたつ以外の何ものでもないことはわれわれが、分裂組合として苦しんできたことからしても鮮明にすることができる。

以上のことを検討してみると、総選挙闘争から〝まなぶ〟ことは、情勢は確実に革新勢力が伸びる条件にあったことであり、それを労働者階級が主体的に結集し得る力量が不十分であったことにつきる。

したがって、三池労組が今日まで闘ってきた長期抵抗路線の基調をあらためて確認しあい、階級的な労働者の団結をめざす、一切の資本主義的な合理化に反対する日常闘争を広範に組織していくことが重要である。

同時に国民春闘にみるごとく、自らの経済的な要求闘争と、国民の諸要求を結びあわせ闘いを組みあげていくとき、ゴマカシの自由社会や生産性向上運動を暴露し、真の民主々義的政治体制をうちたてることができる。

参議院選も含め、きたる七七春闘こそ反合理化春闘としての内容を豊富にし、前進しよう。

## 退職者旅行に参加して

### 作品二題

退職者の会　高椋竜生

「あんたも元気じゃったかん」

そして
わらひごえ
短い言葉のなかに
声にならない声が
ぎっしり語っている
握りしめる
手と手にも力が入り
互いにのりこえてきた
人生の重みが
じかに伝わってくる。

### 詩　交流

「あっ元気じゃったかん」

### 俳句　旅吟

筑紫路や畦といふ畦曼珠沙華
木れんのしきりに匂ふ嵯峨野行く
秋耕の煙の上がる嵯峨野かな
あしもとのこころもとなき秋遍路
がまぐちの小銭かぞえて秋遍路
紅葉よりどろき落つる神の滝
滝落つる水を見て吸い込まれゆく
苔寺の苔しづかなる秋日かな

## 思い出の旅

退職者の会　古賀正雄

私は、三年前停年になりましたが、この度三池労組の厚意で今年度の停年退職者と一緒に、東京旅行に行くことができました。

ちょうど国鉄がストに入るのではないかということで、フェリーで行くことになりました。

私は船には酔うので心配でしたが、実際船に乗って見ると乗り心地満点。全然揺れることもなく、中にはバスもあり、汽車とはくらべものにならない程の好い旅を経験することができました。

大阪、東京では、三池にいた仲間たちと会って十分語り合うことができ、一生に一度の記念になる楽しい思い出の旅でした。

三池労組の皆さん、ほんとうにありがとうございました。

鹿財布土産に買うて遍路去る
紅葉バスいろは坂へときしかかる
旅続く奈良の栗めし食べもして
うら若き妻をつれたる秋遍路
十本の束ねてありし遍路杖

## 私の書棚

### 三池からの報告を発刊

命を守る闘い第五集

▼…三池労組はさきに、三池大災害十三周年を記念して〝三池からの報告〟の第五集を発刊しました。

内容は述べるまでもなく裁判闘争の勝利に向けての、「生命を守る反合理化闘争」のその後の展開に関するものです。

大災害裁判闘争担当弁護士の一人―藤本正弁護士自身執筆した、「裁判の経過と問題点、ならびにその歴史的意義」は、ぜひ一読してほしいものです。ご希望の方には、お分かちします。

## フランスで新聞労働者がスト

▼…労働者が占拠していたフランスのパリーの夕刊紙〝パリジャン・リベレ〟に対し、政府は機動警察隊を使い弾圧（十二月五日）

これに対し新聞労働者は六日から一斉に抗議スト突入。なおフランスでは右派の力が強まり、言論の自由が脅かされていると。